



※『ジャイモン』ネパール語で「主(神)を讃美しましょう」の意

NHA卒業生の近畿大学付属高校への留学

2013年3月4日、ネパールから一人の少女が関西空港に降り立ちました。サリタ・シュレスタ、18歳。私が勤務する近畿大学附属高校で2年間学び、近畿大学へ進学するためです。

そのおよそ1年10ヶ月前、NHA相談役の崔根敏(チェ・ゲンミン)氏が来日され、留学先の大学を探しておられました。私のところにもお問い合わせがありましたが、近畿大学での講義は原則日本語のみであり、特待制度についても受け入れは困難であると返答せざるを得ませんでした。しかし、まず附属高校に特待生として留学し、その後大学に進学するという方向で調整を試みることにしました。

附属高校はこれまで、アメリカの姉妹校からの短期留学以外は受け入れたことがありません。学校は新しい事を始めるのが苦手です。受け入れにあたって問題は多くありました。ほぼ全ての授業が日本語で行われている事、定期試験をどのように実施するか、日本語が十分でない留学生に対するケア、近畿大学の受験資格・特待生資格の問題などなど。

しかし、そのような中で先生たちの心を動かしたのは、ネパールの未来のためというNHAの熱い思いでした。留学生が本校に留学し、大学で学んだ後に帰国して、さらにネパールの指導的な役割を担うまでには長い年月を要します。学校長も次のように述べて今回の留学を承認しました。「結果が花開く頃には、私たちは退職して学校にはいませんが、遠い将来の楽しみのために今種を蒔く事も大切なことです。」



NHA校長室にて

その後BFNのおかげで、留学生の受け入れに関して豊かな経験を持つ桃山学院高校の支援もいただくことができ、サリタの受け入れのために動き始める事になりました。しかし、交換留学ではなく一方的な受け入れという変則的な制度のため、入国管理局が難色を示しました。そのため昨夏、私はネパールに赴きました。留学予定の学生と面談し、ピーター校長と握手している写真を撮って入国管理局に提出するためでした。カトマンズ。そこに自分が立っている事が不思議でした。中央アジアの美しい山々と、バイタリティに溢れた街の喧噪に圧倒される魅力的な国こそネパールでした。

そして今年2月、ようやくサリタは留学ビザを手に入れました。振り返れば、越えねばならなかったハードルはここに書ききれないほどでしたが、同時になんと多くの方々の助けをいただいた事かと驚くばかりです。特に彼女のホストファミリーを快くお引き受けくださったご家族の皆様に、心からの感謝を申し上げます。

私たちはようやくスタートラインに立ったばかりです。懐かしい両親のもとを離れ、たった一人で遠い異国の地に来てくれたサリタのためにお祈りください。大切な娘を、私たちに託してくださった神様に感謝しています。

近畿大学付属高等学校教頭 森田 哲

目次:

NHA卒業生の日本留学	1
2013年度NHAの重点計画	2
トリブバン大学学長を招いて2 の卒業式が盛大に!	2
日本語ボランティア奮闘記	3
日本語研究班レポート(1) 日本語教育の必要性和 その可能性	4
ソーラーシステム研究班レポート(3) ソーラー支援事業の展望	5
山形県立東根工業高校 生徒たちの感想	7
新中期目標(5年計画)	8
新たに支援される子供たち (‘12年10月~’13年3月)	8
NHAの先生紹介(2)	9
ネパールのカースト制度(3)	9
サミル・ライの日常生活	10
質問箱	11
ネパール豆知識	11
2012年度決算報告 (‘12年4月~’13年3月)	12
長期ビジョン積立金	12
編集後記	12

ハイライト:

2012年度トリブバン大学学長を
招いての卒業式(2ページ)

日本語研究班レポート(1)
日本語教育の必要性和
その可能性(4ページ)

ソーラーシステム研究班レポート(3)
ソーラー支援事業の展望
(5~6ページ)

山形県立東根工業高校
生徒たちの感想(7~8ページ)

NPO法人 ブリッジズ・フォー・ネパール (BFN)

事務局: 〒569-0811 大阪府高槻市東五百住町3丁目1番4号(鬼頭宅)

Tel/Fax 072-695-0513

URL: <http://www.npo-bfn.org>

2013年度NHAの重点計画

まずはじめに、BFN関係者の皆様に感謝申し上げます。さまざまな方法でのご支援のおかげで、NHAは、私たちの初期目的の通りに発展しつつあります。

NHAの最終目的は、地域社会で最も質の高い水準の教育を提供することと自立経営です。この目的の下、2012年の末より3年間の計画で、学校教育発展のための特別委員会を作り、経営全般に反映しています。

その実践計画として、2013年度の重点部分は、

1. NHA幼稚園の全教師に対するモンテッソーリ教師訓練です。モンテッソーリ訓練専門家に依頼し、2ヶ月コースで定期的に訓練をするものであり、すでに実施しています。
2. 8学年から10学年までを教える中等部教師たちの指導力の向上です。2013年4月中旬以降の新学期より科目別に評価し、新任教師たちを新しく外部から招請し、既存教師たちについても科目と授業時間を調整しようと考えています。
3. 学年進級の厳格化です。8学年から、実力の足りない学生たちは留年させ、学生と親にもさらに学習に熱心さをもたせる雰囲気を作り出そうと計画しています。
4. 日本語授業の活性化です。今年の夏季休暇期間、日本からボランティアを募り、再び日本語授業を実施します。また、NHAで養成している日本語教師(ネパール人)を引き続き養成し、日本語教師の資質が確保される場合、2014年度からは、日本語を定期科目(第二外国語)としても開設することができるよう願っています。現在、この教師は、日本語教育の為に学校から資金を提供され、日本語学校で日本語を学んでいます。



最後にお願ひがあります。NHAに来て、日本語授業をして下さるボランティアが必要です。関心のある方々がボランティアに参加していただけるならば、BFNを通じてお申込みして下さいようお願いいたします。(詳細はBFNのホームページをご覧ください。)

NHA相談役 崔根敏(チェグンミン)

2012年度トリブバン大学学長を招いての卒業式が盛大に！

4月10日にNHAの5回目の卒業式を執り行いました。

式は近隣の学校からの招待客に囲まれて盛大に催されました。今回ネパールで最初の大学であり、最大の大学であるトリブバン大学(日本での東京大学に相当)の学長をお招きしました。千人以上の生徒、保護者がこの式に参加しました。そして、主賓、理事長、学校長がスピーチをしました。また、卒業生代表が学校、教職員、支援者の方々に対する感謝の気持ちを伝えました。



トリブバン大学学長式辞



カシクシホテルでの記念撮影

学校での厳粛な式の後、教職員と卒業生たちはクシクシ

ホテルでの謝恩会に参加し、すばらしい食事を楽しみました。卒業生全員が食べ放題の食事、特にアイスクリームを楽しんでいました。最後には皆で記念撮影をしました。

卒業式はネパールでは通常あまり行われませんが、NHAでは欠かせない行事です。卒業生へはもちろん、NHAの在校生にも励ましているからです。また、卒業式は卒業生にすばらしい思い出と、卒業した後も続くNHAとの強い絆をもたらしています。



このような式を催すにあたり、私たちはBFNの協力を忘れることはできません。皆さまのおかげで、私たちだけでは決して出来ないすばらしい式を開催することができております。

皆さまのかけがえのないご支援に心から御礼申し上げます。

NHA学校長 ピーター・マハラジャン

日本語ボランティア奮闘記

2012年11月～2013年2月までの3か月間、NHAで日本語を教える奉仕をさせて頂いた。私以前にすでに数人の日本人ボランティアがNHAで日本語教育を行ってきたが、二点ほど課題があった。一つ目は「継続的指導ができないこと」。



日本語クラスの生徒たち

NHAの生徒たちは日本語を学んでも、次の日本人ボランティアが来るまでに数か月間空いてしまうため、上達困難な状況であった。二つ目の課題は、ボランティア同士の申し送りがないため、「対象となる生徒の日本語レベルも様々(学習経験者・未経験者が混合)で、把握・授業展開が困難」ということであった。

これらの対策として、今回NHAの先生(ネパール人)を一名選抜して日本語を教えることとなった。継続指導の実現のためだ。今後は彼(サンジェ先生)がNHAの生徒達に日本語を教えること

を期待されているため、教える私も学ぶサンジェ先生も真剣であった。通常授業終了後の夕方1時間、1対1での個人指導であった。私たちは学習した内容を何度も繰り返し応用しながら使い続けた。ひらがなの学習から始まり、最終的には動詞の五段活用形まで理解し、実に教え甲斐のある楽しい授業であった。ちなみに授業はほぼ英語で行った。

次に、生徒への集団指導であるが、こちらも対策を講じた。今回の希望者の中心は中学1～2年生、すでに日本語学習経験者もいれば未経験者もいた。授業レベルを定めるために、まず初回時にレベルテストを行い、中級者対象のクラスとして開始した。中級者と言っても、「ひらがなは多少読み書きができるが、カタカナ習得はこれから」といったレベルである。生徒たちの日本語学習に対する意欲は高く、途中辞退することなくほぼ全員、最後まで授業を受け続けたことは私にとっても励みであった。



サンジェ先生との授業

月1度復習テストを行い、次回ボランティアのために生徒たちの最終レベルも評価し、区分した。別れが惜しく感じたほど、実に人懐っこく可愛い生徒たちであった。

2013年4月から近大付属高校2年として留学するサリタさん(現在はすでに日本で生活開始)に対しては、漢字と会話を中心の学習を行った。漢字概念がないネパール人にとって、習得は難しいに違いないが、実によく学ぶ姿にはこちらが感心したほどだ。来年3月には、もう一人のNHA



日本語クラスの授業

卒業生(プラディップ君)が、日本留学を控えながら日本語学習に奮闘しているところである。彼のためにも、現在もNHAで日本語ボランティアができる人が求められている。

私自身、実際に日本語ボランティアを行ってみて、実に教えられることが多く、充実した毎日を過ごさせて頂いたため、他の方に対しても是非ともお勧めしたい貴重な経験である。



サリタさんとの授業

日本語教育研究班レポート(1) ～日本語教育の必要性和その可能性～

1. NHAを取り巻く環境と今後の運営方針に求められるもの

自費で通う生徒の割合が少ない。FHI(国際飢餓支援機構)からの援助が終わろうとしている。
今後、高い教育レベルの維持、インターナショナル・スクールとしての環境整備、自費で通う生徒数の増加、留学等、日本とのパイプの強化をしていくことにより支援される体質から自立へ推進させていく必要がある。

2. NHAの自立に向けて

インターナショナル・スクールとしての運営、卒業後の進路選択肢の拡大、アジア、特に日本との強いパイプ、学校のレベルアップ、日本語能力を活かしてネパール国内外で活躍する生徒を輩出、日本語教育クラスを設立することにより、日本語習得を求めて、自費で通う生徒を増やすことが有効と考えられる。そのためにはネパールの将来を担う人財育成、SLC(中等教育学力認定試験)での優秀な成績、さらに学校としての魅力、事業継続性確保、特に「留学・進路の確立」、「学校のレベルアップ」の分野において日本語教育クラスの設立が有効と考えられる。

3. 日本語クラスの分類

近畿大学付属高校での授業を受けて理解できること、また定期テストで十分な結果を挙げられる日本語力を有することが目標の留學生対象の日本語クラスと、日本語能力検定試験を受けて合格し、卒業後の進路(ツアーガイド、通訳など)に役立てるNHA学生希望者対象の日本語クラスの2つのクラスの開講を考える。

4. 留學生対象の日本語クラス

主な課題として、学習到達目標をどこに設定するか。日本語教師をどのように確保するかが挙げられる。

5. NHA学生希望者対象の日本語クラス

NHAの日本語クラスを受講した生徒が、日本語能力検定試験を受けて合格し、卒業後の進路に役立てる。3クラス(上級、中級、初級)を設けて、各クラスが設定したJLPT(Japanese-Language Proficiency Test 日本語能力試験)のレベルに到達し、その試験に合格することを目標とする。

6. サンジェ先生の日本語教師としての研修

今後日本語の先生となるように指名され、現在、日本語猛勉強中。普段は英語の先生としてNHAで教鞭をとっている。語学の先生ということもあり、日本語への適応は早い。文法理解が早く、熱心で、自ら単語を調べて努力をしてくるので、非常に教えやすい。

ただし、日本語クラスで教えていくためには、相当の日本語学習が必要である。4月からは日本語学校にNHAから教育費を受けて通う予定である。

サンジェ先生が常駐の日本語教師となり、日本人ボランティアが来た際に、特別授業として日本語の正しい発音を行うなどボランティアとの協働の方向性など検討すべき点が多くある。



7. 課題

現状は、手探り状態でボランティアが実施している。その背景もあり、NHAとしては、サンジェ先生を常駐の日本語教師として選んでいる。課題としては、

- ①ボランティア同士が連携してスムーズに活動を開始できるように、仕事内容が明確にする必要がある。
- ②サンジェ先生の日本語教師としての能力を高める必要がある。
- ③日本語クラスを学業の進展段階別に初級から上級へ3クラスを新設する方針は立っているが、コース目標を定め、カリキュラムや教材などを決めて、授業方法まで決めていく必要がある。
- ④ボランティアがいる期間とボランティアがいない期間、どのように授業を進めるのか、ボランティアの役割をはっきりさせる必要がある。
- ⑤ボランティアの能力には個人差があるため、授業スタイルをある程度確立しておく必要がある。テキスト選定後、どのように進めていくのがよいのか検討課題は多々ある。



ソーラシステム研究班レポート(3) ～ソーラー支援事業の展望～

NHAでソーラープロジェクトを始めて、はや2年半が過ぎました。たった一枚パネルから始まったプロジェクトですが、今は最終段階である100枚の手作りソーラーパネルを生徒たちの手で作成することを視野に入れ、助成金申などの準備を始めました。

ソーラープロジェクトの軌跡と今後の計画予定

実 施 日	実 施 内 容	協 力	持込パネル(W)
2010年11月	・手作りソーラーパネル1枚(40W)を持込み、NHA生徒に授業	NGO:ソーラーネット パネルの無償提供	1(40W)
2012年 2月	・パネル3枚を追加し、簡易システムを設置 NHAの非常用電源に利用 ・手作りソーラーパネルのDVDをNHAで上映	NGO:ソーラーネット パネルの無償提供 東根工高、DVD提供	4(160W)
2012年10月	・12月 東根工高生徒訪問に向けて事前準備渡航 ・東根工高からのNHAにパネル贈呈	東根工高教師の事前調査 パネル無償提供(2枚)	6(240W)
2012年12月	・東根工高校生生徒により、NHA生徒に1Wサイズのミニソーラーパネルの作成指導と簡易手作りモータの実習	東根工高教師、生徒指導 ミニパネルと教材提供	6(240W)⇒非常 用照明、授業用に 利用
今後の計画予定 2013年8月	～手作りソーラーシステム100枚計画の本格始動～ ・東根工高生により、NHA生徒に40W(実利用)サイズのソーラーパネルの作成指導。5枚分(200W)の材料を提供予定	NGO:ソーラーネット 機材の供給(格安提供) 東根工高教師、生徒指導	6(240W)+ 5(200W)
2013年10～11月	・15枚分の材料提供、2013年度の作成分のソーラーを計画	助成金で可能な計画	6+20(800W)
2014年1～2月	・成果確認と計画の策定(フィードバック)	々	6+20(800W)
2014年4～5月	・40枚分の材料を提供し、2014年度の作成分のソーラーを計画	々	6+60(2400W)
2014年10～11月	・成果確認とシステム構築支援	々	6+60(2400W)
2015年4～5月	・40枚分の材料提供し、2015年度の作成分のソーラーを計画	々	6+100(4000W)
2015年10～11月	・成果確認とシステム構築支援	々	6+100(4000W)
2016年2～3月	・成果確認とシステム構築支援、フィードバック完成	々	6+100(4000W)

昨年12月、東根工業高等学校の生徒たちによる、念願だった手作りソーラーパネルの授業を通して、実際にNHAのネパールの子供たちに、「自分達でも作れる」実習を伴った授業を行うことができました。

ネパールの学校を見て思うことは、電気や通信などのインフラが不足していることと同じように、教育や学習においても、できることが限られることです。限られた環境下では、学ぶことにも制約が出てきます。特に実験・実習を伴う理科や技術系の授業はネパールにおいては学習機会が日本よりも圧倒的に少ないと思います。

ネパールの国の現状を考えると、工業や電力系の技術者、特に再生可能エネルギーの技術に明るい人材は非常に必要とされていると思います。実際にJICAを通じて日本のシニア技術者がネパール国営電力会社に指導のため派遣されています。



ソーラープロジェクトの真の狙いは、100枚のパネルを作る過程において経験する、材料や工程の管理、電力系システムの設計、電気保安の経験、経理面やメンテナンスのノウハウ、これらのさまざまな知識体系を、学校を介して地域社会に役立たせることです。

また、カーストにおいて制約された卒業後の就職環境を超えて、生徒たちの選択の幅を広げられるようにすることです。



先生達と記念写真

ソーラープロジェクトのモデルとなる東根工業高等学校は、学校の記念事業として100枚のパネルと、それを用いた校内のソーラーシステムを生徒たちが手作りし、国内外で広く活躍しています。ネパールの学校でこの取り組みが実る時、どれほどのインパクトがこの国に生まれるのかと、期待でいっぱいになります。

現在、これらの取り組みのために3つの助成金の申込みを行いました。

日立環境財団と環境再生保善機構は不可でした。連合「愛のカンパ」は11月に結果が出ます。

昨年12月訪問の時にカウンターパートであるPEN顧問チェ・グンミン氏と、二回目の東根工

業高校の訪問が予定される2013年8月の実施内容の打ち合わせを行いました。

そこで私から提案したのは、1Wの小さなパネルのラミネート機材をNHAに設置し、東根工業高校の生徒たちが指導する内容をNHAでも再現できるように指導ノウハウの取り入れをすることでした。その後(何年かかるかわかりませんが)慣れてきたころに、NHAの要請を待って100枚の手作りパネルのプロジェクトを始動するように提案しました。個人的な考えでは、予算や時間が到底間に合わないと思ったからでした。

しかし、東根工業高校の先生と話をすることで自分の考えをはるかに超えた取り組みとされていきました。再度チェ氏に、100枚プロジェクトを実行したい旨を伝えPENから喜びをもって受け入れられました。自分にできる範囲で計画を立てた時には祈りを忘れていました。

聖書には、「心を尽くして主(創造主)に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」と書いてあります。

しかし、もっと大きな計画に入った時、創造主である神に祈り願う者とされました。このことに必要なすべてが整えられますよう、続けてお祈りをお願いいたします。



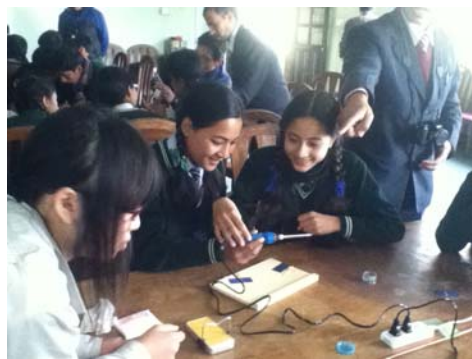
授業終了 記念写真



山形県立東根工業高校 生徒たちの感想

ネパールの姿

ネパールに着いて、私たちを出迎えてくれたのは、現地の人々と同時に、日本とは違うその環境でした。いつもとは違う景色と人々を目の当たりにして、どのように接すればいいのか混乱しそうなほどの驚きがありました。



しかし、日本とは変わらない箇所もありました。それは子供たちの元気です。講習会を行った際、私たちも緊張していたからか、みんな表情が硬い感じがしました。しかし、次第に積極的に質問をしてくれたり、それまで私たちとの間にあった壁がなくなっていくようでした。そして、自分たちで製作した太陽電池パネルと手作りモーターが正常に作動した時には、

みんなが笑顔になってくれました。

講習会以外にも、学校見学を行い、NHAの生徒達の勉強風景を見せてもらいました。勉強している姿は、自分が知らないことを学ぼうとする意欲が伝わってくるようでした。私たちがあいさつをすると元気にあいさつを返してくれたり、日本の学校と同じか、それ以上のものがありました。

私たちが教えたことが、更なる勉強への意識の向上につながればと思います。



東根工業高校3年生 鈴木将人

現地の生徒との交流を通して

現地の生徒との交流するにあたって、まず言葉の壁が立ちました。現地では英語が主でした。基本しかわからないような自分にとって、会話をするなんて考えられませんでした。しかし、そんな壁を破ったのがジェスチャーでした。身振り手振りで言葉を相手に伝える事ができたのです。実際、講習会で教えているときも、このジェスチャーを使い教えました。そこで、なぜジェスチャーで言葉が伝わるのだろうかと思いに思いました。それは、現地の生徒が知ろうとしてくれていたからだと思



います。講習会や自己紹介の時、自分が言っている事を聞いてうなずいてくれました。

現地では、講習会だけでなく学校の見学にも行きました。私自身、知らない人には、自分から話しかけません。しかし、現地では向こうから自己紹介やあいさつをしてきました。



それも日本語だったのでとても驚きました。とても積極的で自分も見習わないといけないと思いました。また機会があったら、現地でもっと交流を深めて距離を縮めたいと思います。

東根工業高校3年生 佐藤 良

NHAの生徒

私たちは、ソーラーパネルの製作を教えるために、ネパールに行きNHAの生徒達と触れあってきました。生徒達は外国人である私たちが珍しく精一杯話しかけてくれました。「歳は?」「名前は?」いろいろと英語で話しかけてくれたり、握手を求めてくれたりしました。なかでも講習会中、「こんにちは」「はじめまして」と学んだ少ない日本語で語りかけてくれたのが一番印象的でした。飴をくれた生徒もいました。



また、上級生が下級生へ教えながら自己紹介をしてくれた女の子たちを見て、言葉で表せないほど嬉しくなりました。その他にも、何と声をかけたら良いかわからない子たちは、手を振ったり笑顔で接してくれました。

NHAの生徒は、みんな積極的で交流するのが楽しかったです。また、講習会の際も教えやすく、彼らの学ぶ意志と興味深さに感心しました。私も、彼らを見習い、

何んでも挑戦し続けていきたいと思います。



東根工業高校3年生 柴田 侑未子

新中期目標 (5年計画)

2013年3月31日現在 (単位 円)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	備 考
子供支援目標数	80名	85名	90名	105名	110名	
(現被支援者数)	81名	85名	100名			
スポット支援目標額	500,000	500,000	500,000	900,000	900,000	単年度
(現支援収入額)	941,977	764,000	1,262,800			
(現年度支援額)	335,834	411,148	561,700	300,000	300,000	
(支援繰越額)	606,143	958,995	1,660,095			
留学生支援金目標額			540,000			検討中
留学生支援準備金		300,000	449,000			

*) 2012年度留学生支援金はスポット支援繰越金(300,000円)と為替差益(149,000円)より準備した。

新規に支援される子供たち 2012年度 (2012年10月~2013年3月)

2013年3月31日現在

氏 名	性別・学年	氏 名	性別・学年	氏 名	性別・学年
サラタ・タマン	女 2年生	ナンハシラ・マハリヤン	女 3年生	シャイリ・カナル	女 3年生
ビニシ・ネウパネ	女 4年生	クリパ・タパ	女 2年生	シタル・スナル	男 3年生
ソマイ・マハリヤン	男 2年生	アニシ・バヤルコチ	男 2年生	プルニマ・ビスタ	女 2年生
ブラサンナ・マハリヤン	女 2年生	スワルナ・マハリヤン	女 3年生	プラチリ・タパ	女 3年生
ディクチャント・パンタリ	男 4年生	キンジャル・アチャリヤ	女 3年生	ササンク・バットライ	男 4年生

NHAの先生紹介(2)

NHAの教育方針と課題

私はネパールのトリブバン大学院にて英文学を学び、1996年から教育に携わり、2005年の4月からNHAにて社会科の教員、また教務担当として働き始めました。

NHAの目標は、生徒たちが実践的な知識に基づいて、身体的、社会的、道徳的、知的、霊的にバランス良く発達することです。そして、生徒たちがやる気を起こし、最善の結果を出せるようにするのは、批判、恐怖、罰則などではなく、称賛、励まし、熱心さ、楽しさ、愛情です。NHAの教育方針は、生徒たちの好奇心を刺激し、学ぶ意欲を引き起こすことです。

NHAの課題としては、次のようなものがあります。

- ・生徒とその親の貧困
- ・教員の積極的な態度や考え方の不足
- ・教員の質が十分なレベルに達していないこと
- ・平均的な生徒たちの学習に対する興味の不足
- ・地域の文化、伝統の悪い面の影響

カトマンズに隣接する田舎の村で学校を運営することは、大変労力のいる仕事です。しかし、困難がない仕事はないと信じ、私たちは働きを続けています。

NHAの学力的な分野における責任者として、2015年には本校をカトマンズ西部地区において最も競争力のある、評判のよい学校の1つとして建て上げることが私のなすべきことだと考えています。

NHA教務部長 プラサント・カナル



ネパールのカースト制度(3)

カースト制度の理論と発達

ヒンズー教の最古の文献「リグ・ヴェーダ」の「原人(プルシャ)賛歌」によると、最初の人プルシャが人間社会を造るために自分自身を破壊したと書かれています。4つの異なるカーストは、破壊した時にプルシャの体の異なる部分から造られました。すなわち、ブラフマン(祭司階級)は彼の頭から造られ、クシャトリア(王族、軍人)は彼の手から、バイシャ(商人、地主)は彼の大腿部から、シュードラ(隷属民)は彼の足から造られました。カーストの序列は、体の上の部分から下の部分に下っていく順に基づき決定されました。ちなみに、釈迦は、王族ですから二番目のクシャトリアになります。

靈魂の生まれ変わり(輪廻転生)は、ヒンズー教の基本的な教えの一つです。死後、魂は新しい形で生まれ変わるといいます。魂の新しい形は、前世(生きてきた世界)の行動の高潔さによって決まるとされています。たとえば、シュードラの人が高潔な生き方をしたならば、来世(次に生れて来る世界)においてブラフマンになれるという可能性があるとされています。これは、あくまで可能性であって、どれだけ善行すれば、どんなカーストになれるのかわかりません。また、誰がどのように決めるのかも明らかではありません。あくまで可能性なのです。また、魂は、人間社会の異なるカーストを行き来するだけでなく、動物にも生まれ変わります。ヒンズー教徒で肉食主義者が多いのは、自分の先祖たちがひょっとして動物になっている可能性もあるので、誤って食べることを恐れるゆえなのです。

ネパール人は、近代までほとんど社会的移動がないため、カーストの考えを変える事ができません。来世においてより高い社会的な地位を得るために、また、高いカーストから落ちない為にも、現世において徳を積むために励まなければなりません。この制度が現在まで続いているのです。



元NHA教頭 コモル・プラサド・ポカレル

サミル・ライの日常生活

子供の名前 :サミル・ライ
お父さんの名前:ヤム・ライ
お母さんの名前:(故人)

学 年 :4年生
お父さんの仕事:運転手

サミルは2009年1月からBFNの奨学金を受けています。幼稚園からNHAで学んでいます。長男で、妹がいます。妹は小学3年生ですが、貧しさのため近くの公立の学校に通っています。母親が他界したため、サミルには母親がいません。



サミルは朝7時に起き、夜9時に寝ます。母親がいないので1人で学校の準備をしなければなりません。10時から夕方4時までの学校の授業を終え帰宅すると、宿題をします。その後は、近くの牧場にやぎを連れて行き、面倒を見なければなりません。時々時間がある時には友達とサッカーをします。サミルはBFNの奨学金がなければ、経済的にNHAには通えないことを知っています。ですから

BFNの奨学金に非常に感謝しています。特に手紙とプレゼントを里親の方から受け取る時、とても幸せだと感じ、一生懸命勉強する励ましを得ています。



また、サミルはマチェガウンキリスト集会で行われている教会学校に毎週土曜日の朝、出席しています。

つい1ヶ月程前に母親が死にました。それで、今は非常に悲しい思いをし、心を痛めています。サミルは母親の死により傷ついた心を回復するために頑張っています。最近サミルは母方の家族と暮らすよう

になりました。

サミルの母方の祖母は次のように言っています。

「サミルは非常に賢い誠実な少年で、熱心に勉強します。決して学校を休みませんし、日々の宿題についてもきっちり取り組んでいます。妹を愛し、世話をしています。掃除、料理、洗濯、山羊の餌やりなどの家事を手伝います。自由な時間は絵を描いたり、色塗りをしたりして楽しんでいます。



サミルは父親と遠くの村にある家に行くことを望みませんでした。サミルは私たちと一緒に暮らすこと、私たちの面倒をみることを望んでいます。サミルは年配者を尊敬しており、従順で、家族にとって愛すべき存在です。」

担当のシュレスタ先生は次のように言っています。

「サミルはクラスで非常に優秀な生徒の1人です。マナーが良く、よくしつけられています。毎年成績の順位が上がっています。授業中も真面目な生徒です。課題にも真剣に取り組めます。期限内に必ず課題をなし、宿題の提出を忘れることは決してありません。スポーツにも熱心に取り組んでいます。」



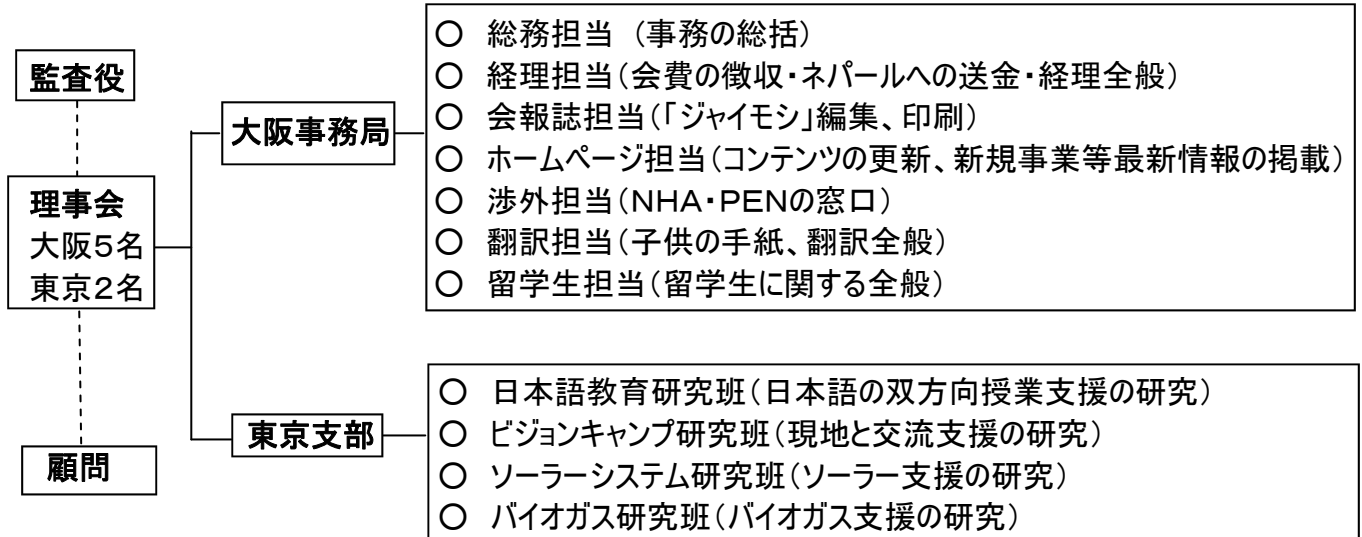
担任 シュレスタ先生

レポーター PEN職員 ウジャラ・シュレスタ

質問箱

質問:「東京支部ができたそうですが、東京支部は何をするのですか。BFNの組織は、全体的にどのようになっているのですか」

回答: BFNは、昨年に東京支部を開設しました。事務的なことは、大阪事務局が行い、東京支部は研究チームです。研究チームは、技術支援、教育支援、人的支援を研究しています。金銭支援だけでは、いつまでたっても自立ができません。自立も含めて役立つ支援を研究するチームです。組織図は次のとおりです。



ネパール豆知識 (これって知ってた?)

一日二食って本当?

地域や経済状況で違うので、ひとことで言うことはできませんが、ネパールでは普通、一日二食の家庭が多いのは事実です。朝は、簡単に「チャイ」というミルクティーを飲みます。昼は、ドーナツとチャイ、夜に「ダルバット・タルカリ」が一般的です。「ダルバット」は、ネパールご飯とレンズ豆のスープです。ご飯の量は多いです。「タルカリ」は、野菜のカレー炒めです。それを「サール」という金属のお皿に載せて右手でつまんで食べます。お祭りや特別な日は、「マス」といって鶏肉やヤギ肉がでます。ヒンドゥー教徒が多いので、牛肉を食べる事はありません。また、豚肉もほとんど食べません。大体毎日同じメニューです。

学校に来る子供たちは、昼は家に帰って食べます。もちろん学校給食はありません。家が遠い子供たちは、炒りトウモロコシや大豆をポケットに入れてきます。そして、水飲み場の水でお腹を満たします。お小遣いのある子は、小さな雑貨店でバラ売りのキャンディーや風船ガムを買います。いつまでもガムを噛んで空腹感を満たします。

都会から離れ田舎の村を歩いていると、子供たちが取り巻くようにやって来て、「チューインガム、お菓子」とねだります。少し走れるようになった子供も半裸で、石ころだらけの道をはだして追いかけてきます。ネパールを知れば知るほど、日本の食事の豊かさに疑問がわきます。

最近では、日本にもネパール料理店が紹介されています。料理店に行けば、チョウメン(ネパール風焼きソバ)、モモ(ネパール風ギョウザ)等を食べることができます。ネパールを知るためにもネパール料理を食べに行ってください。ミトチャ(おいしい)。



ダルバット・タルカリ

2012年度 決算報告

収支決算書

2012年4月1日～2013年3月31日 (単位 円)

(収入の部)			(支出の部)		
科目		収入額	科目		支出額
入会金・会費	正会員入会金	30,000	事業費	未就学児童への支援事業	1,409,208
	正会員会費	690,000		教育機関への支援事業	645,120
	賛助会員会費	2,850,000		ネパール人留学生への支援事業	300,000
寄付金	スポット支援金	1,262,800		日本における啓蒙活動事業	263,756
雑収入	雑収入	87	事務費	会費収納管理費(会費引落手数料)	250,759
当期収入合計(A)		4,832,887		郵送料・通信費	22,610
前期繰越金	賛助会員会費繰越金	302,198		支払手数料	54,810
	スポット支援金繰越金	958,995		消耗品費	125,653
	事務費繰越金	205,843		雑費	10,000
	長期ビジョン積立金	958,000	支出合計(C)		3,101,916
収入合計(B)		7,257,923	当期収支差額(A) - (C)		1,730,971
			次期繰越収支差額(B) - (C)		4,156,007

貸借対照表

2013年3月31日 (単位 円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	0
現金	37,240	【固定負債】	0
預貯金		負債の部合計	0
三井住友銀行	966,147	純資産の部	
ゆうちょ銀行(振替)	1,324,620	賛助会費繰越金	600,164
ゆうちょ銀行(通常)	300,000	スポット支援繰越金	1,360,095
ゆうちょ銀行(定額)	1,528,000	事務費繰越金	218,748
【固定資産】	0	長期ビジョン積立金	1,528,000
		留学生支援繰越金	449,000
		純資産の部合計	4,156,007
資産の部合計	4,156,007	負債・純資産の部合計	4,156,007

長期ビジョン積立金

2013年3月31日現在

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	合計
長期ビジョン積立金	454,500	503,500	570,000			1,528,000

編集後記

2013年5月23日、80歳のプロスキーヤー・三浦雄一郎さんは3度目のエベレストの頂上に立ちました。80歳7カ月でエベレスト最高齢登頂。しかも親子同時2度目の登頂は共に世界初です。三浦さんは、登頂後、8500メートル地点で脱水症状のため休憩し、標高7980メートルのキャンプへの下山に9時間超かけました。「8500メートルのキャンプで休憩できなければ、生きて帰れなかった」と極限状態だったことも明かしました。それでも、三浦さんは、次の挑戦について「親子でヒマラヤのチョー・オユー(8201メートル)の頂上からスキーで滑ってみたい」そうです。三浦さんの衰えぬチャレンジ精神に感服と感動を覚えます。

さて、BFNは、今年で6年目、ジャイモン10号記念号を出す事ができました。すべて、御支援して下さいる皆様の祈りと賜物ゆえです。心から感謝とお礼を申し上げます。BFNも新しいことにチャレンジしていきます。留学生支援、ソーラーシステム支援、日本語教育支援の各事業を本格化していきます。それが、いつ、どのように実を見るのか分かりませんが、チャレンジ精神を忘れずに進みたく思います。これからもご支援をよろしくお願い致します。